

第3次山辺里地区まちづくり計画

「大好き・さべり」でひろがる和
～山辺里地区みんなが幸せを感じる地域づくり～



令和4年4月14日 策定

山辺里地区まちづくり協議会

●目 次

●山辺里地区の市民協働のまちづくりにあたって	P 2
1 はじめに	P 3
2 山辺里地区の特色と現状	P 3
3 地域の課題	
(1) 課題の整理	P 4
(2) 取り組むべき事項	P 5
4 協議会の活動の成果と課題	P 5
5 計画の基本方針	
(1) 基本姿勢	P 7
(2) スローガン	P 7
(3) 理想の将来像	P 7
6 推進方針・方策、理想の将来像実現のための実施サイクル	
(1) 推進方針・方策	P 10
(2) 理想の将来像実現のための実施サイクル	P 11
7 まちづくりの推進体制	P 12
8 第3次 山辺里地区まちづくり計画策定委員	P 13

●山辺里地区の市民協働のまちづくりにあたって

◇笑顔で暮らせる地域づくりを目指して◇

山辺里地区まちづくり協議会 会長 大滝 和良

山辺里地区まちづくり協議会が発足してから10年が経過し、これまでも第1次、第2次計画に基づき地域の特色を活かした事業を展開しながら、地域活性化に取り組んできました。

第3次計画では、昨年6月に実施しました全住民アンケートから見える課題を、地域の皆様が、より幸せを感じ笑顔で安心、安全、健康に暮らせる地域づくりの実現を目指すために取り組みたいと考えております。

また、これらの取組には区長会様初め、地域の皆様のご協力とご理解なくして前進できません。まちづくり協議会としても委員一丸となり、中身の濃い協議会を目指し前進していきます。これからも皆様からのご意見、ご支援をお願いし、挨拶に代えさせていただきます。

◇第3次山辺里地区まちづくり計画にあたって◇

山辺里地区区長会 会長 小田 幸男

今年の大雪も3月に入り、ようやく春の近さを感じさせる季節となりました。

皆様には、益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。

近年、各集落においてオノ神行事など盛んに行われるようになりました。このように伝統行事の継承が住民の結びつきを強くするのではないのでしょうか。

さて、今年が第3次山辺里地区まちづくり計画のスタートの年となります。昨年の多くの皆さんのアンケート結果を踏まえ、協議会では地域の更なる活性化に取り組んでいくことと思います。

区長会としても、計画実現に向け、できる限りの協力をする所存です。

計画を進める上で様々な問題点、難関があると思いますが、主役の地域の皆様のご理解、ご支援をいただきながら、必ずや素晴らしい成果を収められることを祈念しております。

1 はじめに

私たちが暮らす山辺里地区は、清らかな川が流れ、美しい田園風景に象徴される緑豊かな地区です。

私たちは、豊かな自然と先人の英知とたゆまぬ努力によって発展してきた大切なこの地区を、より暮らしやすくするとともに、次の世代へ引き継ぐため、ともに力をあわせ、助け合い、自らの手で築いていかなければなりません。

そのため、平成 23 年度に山辺里地区まちづくり協議会を立ち上げました。そしてその活動を推進するための中心核となる山辺里地区まちづくり計画（平成 23 年度に第 1 次、平成 28 年度に第 2 次）を策定し、以来、10 年間という長期にわたって、自ら掲げた将来像の実現を目指して、さまざまな活動を展開してきました。

これまでの取り組んできた活動で培ってきたノウハウを活かしながら、これからも責任を分かち合い、誰もがまちづくりに参画し、それぞれの持つ個性や能力が発揮された魅力と活力にあふれた地域社会の実現のため、第 3 次山辺里地区まちづくり計画を策定します。

また、人口減少や少子高齢化が進む社会において、将来に渡って「持続」を目指していくことは山辺里地区においても必然的なことと捉え、SDGs（持続可能な社会目標）の考え方と関連させていきます。

2 山辺里地区の特色と現状

山辺里地区は、過去の長い年月を経て三面川、門前川などが運んできた土砂で平野ができ、肥沃な大地を活かした農業を中心に発展してきた地区です。

山辺里地区を大きく分けると、門前川をめやすにして、上流から上地区、中地区、下地区に分けられ 20 集落 3,763 人（令和 4 年 1 月 1 日時点）が住んでいます。過去 5 年間における人口の推移は国道 7 号を中心に農地や空き地などの宅地化が進められた集落では、わずかに増えたものの、それ以外の地域ではほとんどの集落で減少しています。

山辺里地区には、三面川、門前川に代表される清らかな川が流れ、美しい田園風景が広がり、緑と自然にあふれた地域です。また、やさしく親切な人柄の人が多く、近所で助け合って暮らしています。門前には越後四箇道場のひとつ名刹耕雲寺があり、各集落では、左義長や地藏様祭りなど伝統行事が継承されています。

また、地区の中心を国道 7 号が縦断し、また日本海東北自動車道村上山辺里 I C があり交通アクセスがよく、近くに大型商業施設もあって生活の利便性が高い地域です。山辺里小学校、山辺里保育園が隣接し、市内でも比較的、新しく広い施設で子どもたちは伸び伸びと学び、成長しています。坪根地内には、村上市工業団地があり、世界有数の航空機部品を製造する企業などが立地しています。

近年、基幹産業である農業の後継者不足や一人暮らし高齢者の増加、次代を支える若者が減少していることなどが、憂慮されるべき状況となっています。

3 地域の課題

(1) 課題の整理

山辺里地域が抱える課題について、山辺里地区まちづくり協議会で行った全住民アンケート調査の集約結果による回答の傾向を分析し、地域の課題を整理します。

項目	回答から見える傾向
地域活動への関心	<ul style="list-style-type: none"> 現在は40～70代の頑張りで地域活動が回っている。 すべての年代で「関心あり＋不参加」が3～4割おり、特に女性は「関心があっても参加していない」割合が男性に比べて高い。 必ずしも「地域活動に参加していない＝関心がない」という訳ではない。
この地域に住み続けたいと思うか	<ul style="list-style-type: none"> 地区全体では6割以上が「住み続けたい」と思っている。 40代以下はその割合が地区平均よりもかなり低く、子世代に影響を及ぼしている可能性が大きい。
自分の子供に住みつづけてほしいと思うか	<ul style="list-style-type: none"> 地区全体の1/3が「住み続けてほしい」と回答。ただし、50代以下は「思わない」の割合がかなり高い。 50代以下の大半で4～6割が「わからない」と回答。 女性は「思わない」の割合が高い。
地域に愛着はあるか	<ul style="list-style-type: none"> 40代以下の愛着度は低い訳ではない。 「誇りに思う地域資源」については、世代によってかなり異なっている。 愛着があっても定住傾向が低いのは将来への希望、安心感が足りていないことが要因ではないか。
10年後の不安・心配ごと	<ul style="list-style-type: none"> 自分自身の健康面。 屋根の雪下ろしや玄関先の門払いなど冬季の除雪。 家（住宅や作業場、庭木なども含む）の維持管理。 安定して収入が得られるか。 医療や福祉党の公的サービスが今と同じように受けられるか。
将来を見据え、これから重点的に取り組むべきだと考えられていること	<ul style="list-style-type: none"> 空き家の状況把握、持ち主との交渉など、空き家の管理活動。 買い物や通院などの移動支援活動。 見回りなどの防犯・交通安全活動。 農地・山林などの維持管理。 避難訓練・連絡体制などの防災活動。

(2) 取り組むべき事項

課題整理から見えてきた、地域住民が求めているもの、取り組んでいかなければならないことをまとめました。

① 住み続けたいと思えるまちづくり

- ・子育てや高齢者支援の面でも支え合って安心して暮らせる地域づくり
- ・親から子へ、住んで良いと思える地域づくり

② 自然の保全と活用

- ・周囲の山々や門前川、広がる田園風景など、地域が誇れる豊かで美しい自然環境を後世に継承していくための保全活動や良好な環境づくり

③ 安全・快適な地域づくり

- ・災害時の助け合いや日々の暮らしにおけるささえあいの確立など、地域ぐるみの備え
- ・美しく快適な地域づくりのための美化活動

④ 伝統文化交流の継承

- ・地域の伝統文化・行事等を次の世代に伝える活動を通じて、地域への愛着と誇りを持てるよう地域住民同士が繋がりを深め、互いに支え合いながら子どもと大人が共に育つ地域づくり

⑤ 市民と行政の協働のまちづくり

- ・まちづくりの目的や課題を市民と行政が共有し、地域住民・企業・各種団体等が適切な役割分担のもと、相互に連携する協働のまちづくり

4 協議会の活動の成果と課題

山辺里地区では平成24年3月に協議会が設立され、地域の目指すべき目標や解決すべき課題を住民の皆さんと共有しながら、市民協働のまちづくりに取り組んできました。これまで協議会で取り組んできた成果や課題を整理します。

(1) 活動の成果

【安全・安心分野】

- ・イメージソング「大好きさべり」を活用した「すこやか体操」は、集落での集まりでの活用など地域住民の方の健康増進に繋がることができた。
- ・「むらかみ互近所ささえ～る隊」との取組みは、少しずつ定着してきている。より多くの人に関心を持ってもらうための取組みが必要。
- ・自然環境の保護活動は、「かんきょうウォーク」「かんきょう講演会」を通して地域に浸透してきている。

【地域交流分野】

- ・集落活性化補助金については、多くの集落に活用してもらえるよう毎年度改正を加えながら行っております。コロナ禍で集まりをもてない中でも、集落の活性化につながる取り組みを続けている。
- ・設立当時から取り組まれているイメージソング事業については、子供からお年寄りまでに親しまれる地域の歌となり定着した。
- ・地域の交流事業として行っている、地区グラウンドゴルフ大会、夏のふれあいフェスタも一大イベントとなった。
- ・伝統文化の継承に向けた取り組みとして、地区文化祭やふれあいフェスタを通して「あまめはぎの保存」「盆踊り」を開催できたことにより、地域の方の関心を得るきっかけづくりができた。

【発掘・発信分野】

- ・地域の特産物をいかした「さべり焼」の普及は、イベントでの販売を通して地域の方に知ってもらうことができた。
- ・山辺里の魅力を再発見する「フォトコンテスト」は令和3年度に10回を迎えました。近年では応募点数は少なくなってきたものの、若者からの応募が見え始め、視点を変えた地域の魅力を感じることができるものとなってきている。

【育成分野】

- ・第2次計画から立ち上げた青年部の活動は、次代を担う子供たちを取り込んだイベントの企画、地域の魅力を発信する企画を行うことにより、まちづくり協議会の取り組みを地域の方に広く関心を持ってもらうことができた。
- ・青年部での企画事業は、他部会と連携を図りながら行うことにより協議会内での世代間交流が行われている。

(2) 活動の課題

- ・後継者育成の必要性。
- ・災害・防災への意識変化。
- ・人と人とのつながりの重要性。
- ・他団体等との交流による組織力のレベルアップ。
- ・「困りごと」や「不安」の解消に向けての対策。
- ・次世代への継承・活動への参画が一部の住民にとどまっているため、各世代の参画と世代間交流により、交流の輪を広げることが求められている。
- ・女性や若者の参画が少ない。
- ・少子高齢化、若者や子育て世代が安心して暮らせる施策を望む声が多い。
- ・部会を超えて取り組む課題、協議会全体で取り組む事業の見直し。
- ・市民協働のまちづくり（協議会を含む）が住民に周知されていない。

5 計画の基本方針

(1) 基本姿勢

村上市では、平成23年度より村上市の重点的施策のテーマに「市民協働のまちづくり」を掲げ、市内各地域で地域まちづくり組織を組織して、地域の特性を活かした活力あるまちづくりに取り組んできました。

山辺里地区においても「山辺里地区まちづくり協議会」を設立し、地域と行政が互いに知恵を出し合いながら、地域活性化のため、第1次・第2次まちづくり計画を策定し、計画に基づいた様々な取り組みを展開してきました。

本計画は、これまでの第1次及び第2次計画における取り組み成果を踏まえつつ、必要な見直しを行い、これからの山辺里地区の市民協働のまちづくりを進めていく上で、地域課題の把握に努め、その解決に向けた取り組みを推進するとともに、互助やふれあいを大切にしながら、地域みんなが幸せを感じ、笑顔で暮らせる地域づくりのための中長期的な指針となるものです。

(2) スローガン

「あふれる緑 つながる和 生き生きさべり」

(3) 理想の将来像

1 子どもからお年寄りまで安全安心で、健康的でいつまでも住み続けられるまち

少子高齢化から、地域における空き家の増加、農地・山林の維持等の生活環境変化や震災・風水害といった災害等の意識が変化してきている中、買い物や防犯・防災といった地域住民の生活支援のニーズの高まってきていることから、地域住民が安心安全に、かつ健康で暮らしていけるまちを目指します。

2 伝統文化の継承や地域行事等を通じて、人と人、企業、団体がつながり、助け合い、ふれあうまち

地域に根付く伝統文化を未来に引き継いでいくこと、集落単位又は地域全体での地域行事・活動を実施するにあたり、地域住民の参加を促し、住民同士や企業、他の団体との交流を深めることにより、人と人がつながり、ふれあい、助け合いを大切にしながら、笑顔あふれるまちを目指します。

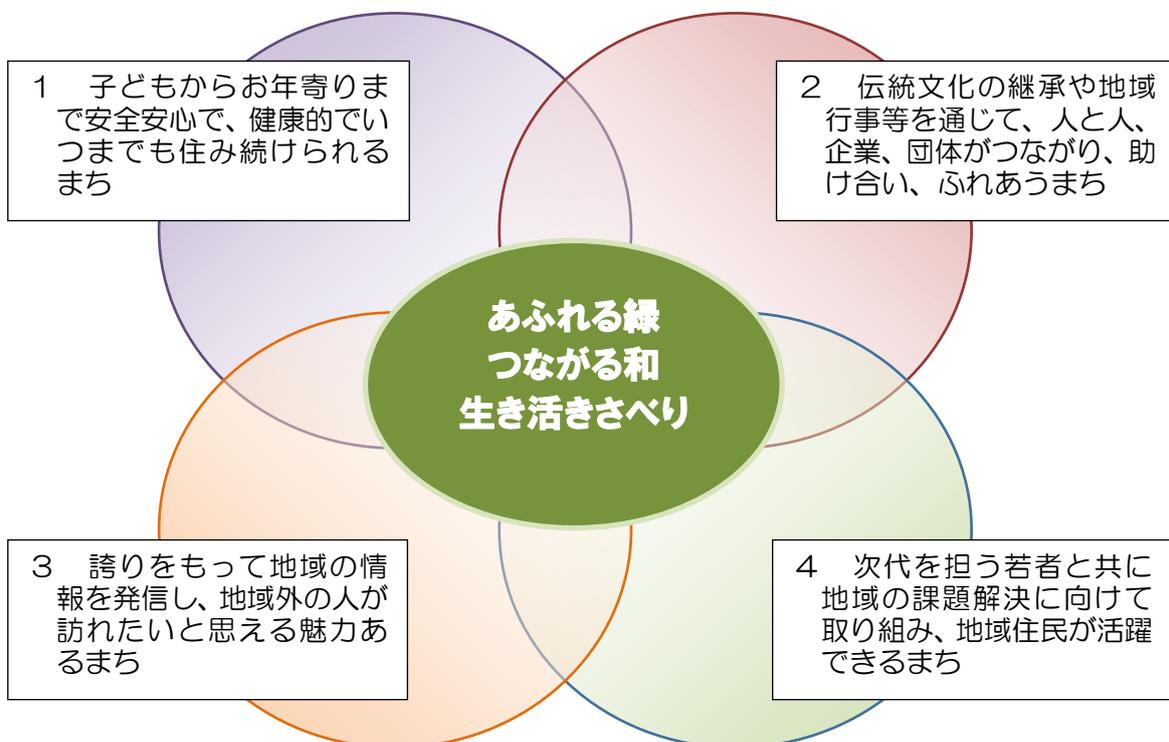
3 誇りを持って地域の情報を発信し、地域外の人が訪れたいと思える魅力あるまち

清らかな川や美しい田園風景、緑豊かな山林を有する山辺里地区の自然は地域の誇りです。そのような地域の魅力の再発見と情報を積極的に発信し、若者を中心とした地域外の人々とのつながりを構築・継続しながら、山辺里地区を訪れる人々を広く温かく受け入れ、地域の人々とふれあい、楽しむことで「また訪れたい」ひいては「住んでみたい」と思えるまちを目指します。

4 次代を担う若者と共に地域の課題解決に向けて取り組み、地域住民が活躍できるまち

地域の状況や人々の想いは、時間の経過と共に変化していく中で、地域における課題も変化していきます。今後は好評・定評のあるイベント（ふれあいフェスタや文化祭等）を実施しつつも、アンケート結果から見える地域が求めること、地域で問題になっていることに創意工夫しながら、その解決に向けた取り組みを促進し、地域の人々、特に次代を担う若者が大いに活躍できる仕組みやシステムづくりを行い、活気に満ちたまちを目指します。

(イメージ図)



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



■SDGs（持続可能な開発目標）における17のゴール【地方創生SDGs】

地方創生は、少子高齢化に歯止めをかけ、地域の人口減少と地域経済の縮小を克服し、将来に渡って成長力を確保することを目指しています。

地方が将来に渡って成長力を確保するには、人々が安心して暮らせるような、持続可能なまちづくりと地域活性化が重要です。特に、急速な人口減少が進む地域では、くらしの基盤の維持・再生を図ることが必要です。

持続可能なまちづくりや地域活性化に向けて取り組みを推進するに当たっては、SDGsの理念に沿って進めることにより、政策全体の全体最適化、地域課題解決の加速化という相乗効果が期待でき、地方創生の取組の一層の充実・深化につなげることができるため、SDGsを原動力とした地方創生を推進します。

SDGsにおいては、17のゴール、169のターゲットが設定されるとともに、進捗状況を測るための約230の指標（達成度を測定するための評価尺度）が提示されています。これらを活用することにより、行政、民間事業者、市民等の異なるステークホルダー間で地方創生に向けた共通言語を持つことが可能となり、政策目標の理解が進展し、自治体業務の合理的な連携の促進が可能となります。

これらによって、地方創生の課題解決を一層促進することが期待されます。

（出典：内閣府HP）

6 推進方針・方策、理想の将来像実現のための実施サイクル

(1) 推進方針・方策

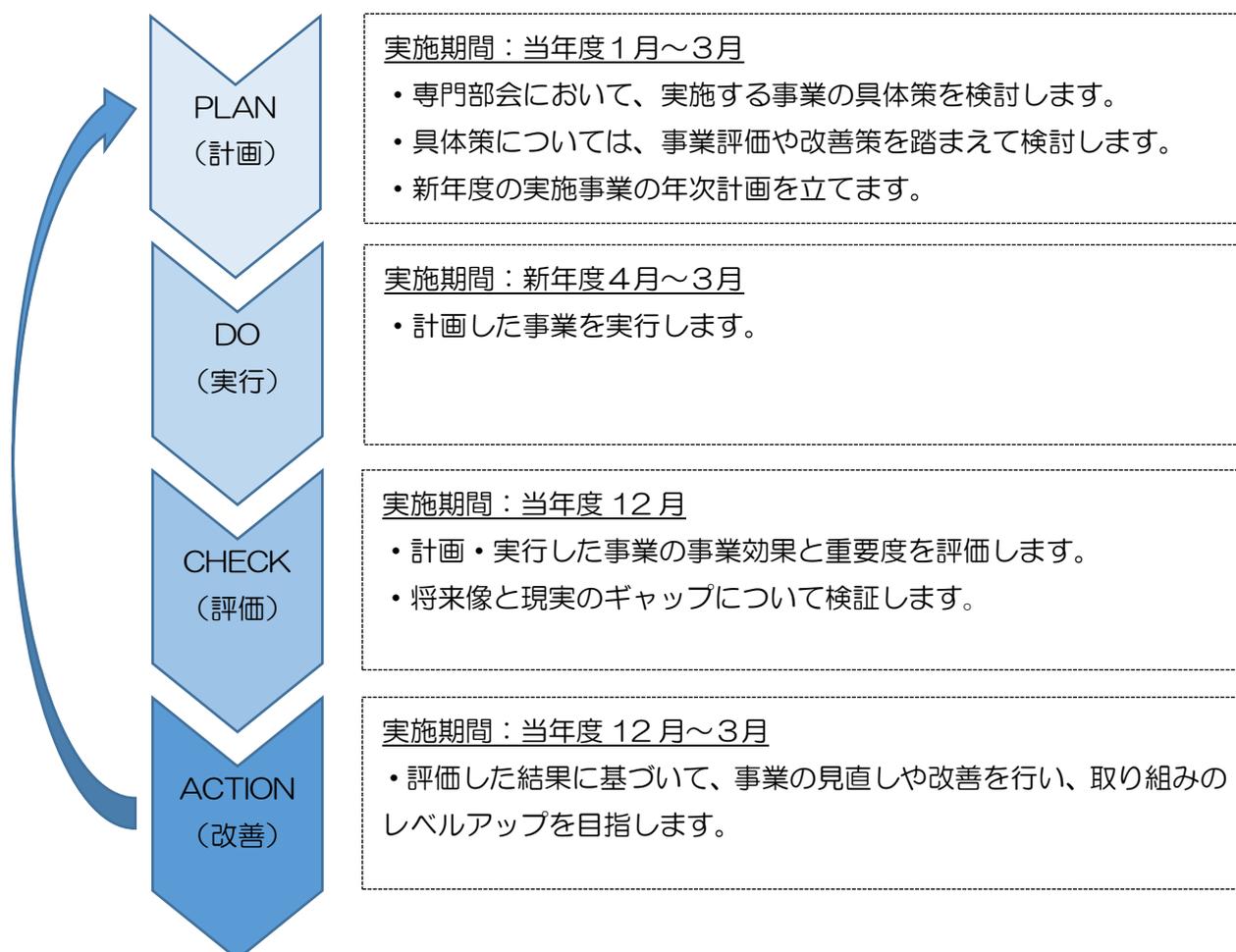
分野	推進方針	方 策
健康・福祉・防災	①誰もが安全・安心な暮らしができる取り組みを推進する	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者や障がい者にやさしいまちづくりの推進 ・子どもを見守る活動 ・健康教室、運動教室の実施 ・災害に備えた訓練の実施 ・安全に対する知識の共有
地域支援・地域振興	②地域行事や集落行事で、人と人がふれあう活動を活性化させる	<ul style="list-style-type: none"> ・集落活性化事業の実施 ・スポーツ活動の充実 ・文化活動の充実 ・伝統行事の伝承支援 ・企業と連携した事業の検討実施
産業振興・定住促進	③誇りをもって地域の魅力を高め、地域外の人々とのつながり促進する	<ul style="list-style-type: none"> ・新規交流事業の検討実施 ・自慢できる地域の魅力を再発見する取り組み ・「訪れたい」「住んでみたい」と思える取り組み ・地域の自然と環境を守る活動 ・他地域・他団体、地域外の人との交流 ・地域コミュニティの情報発信と強化
担い手育成	④若者と共に、地域の課題解決に向けた取り組みを促進する	<ul style="list-style-type: none"> ・若者が活躍できる機会の創出 ・コミュニティビジネスの検討 ・組織力向上のための検討 ・次世代への担い手の育成 ・婚活イベントの実施

(2) 理想の将来像実現のための実施サイクル

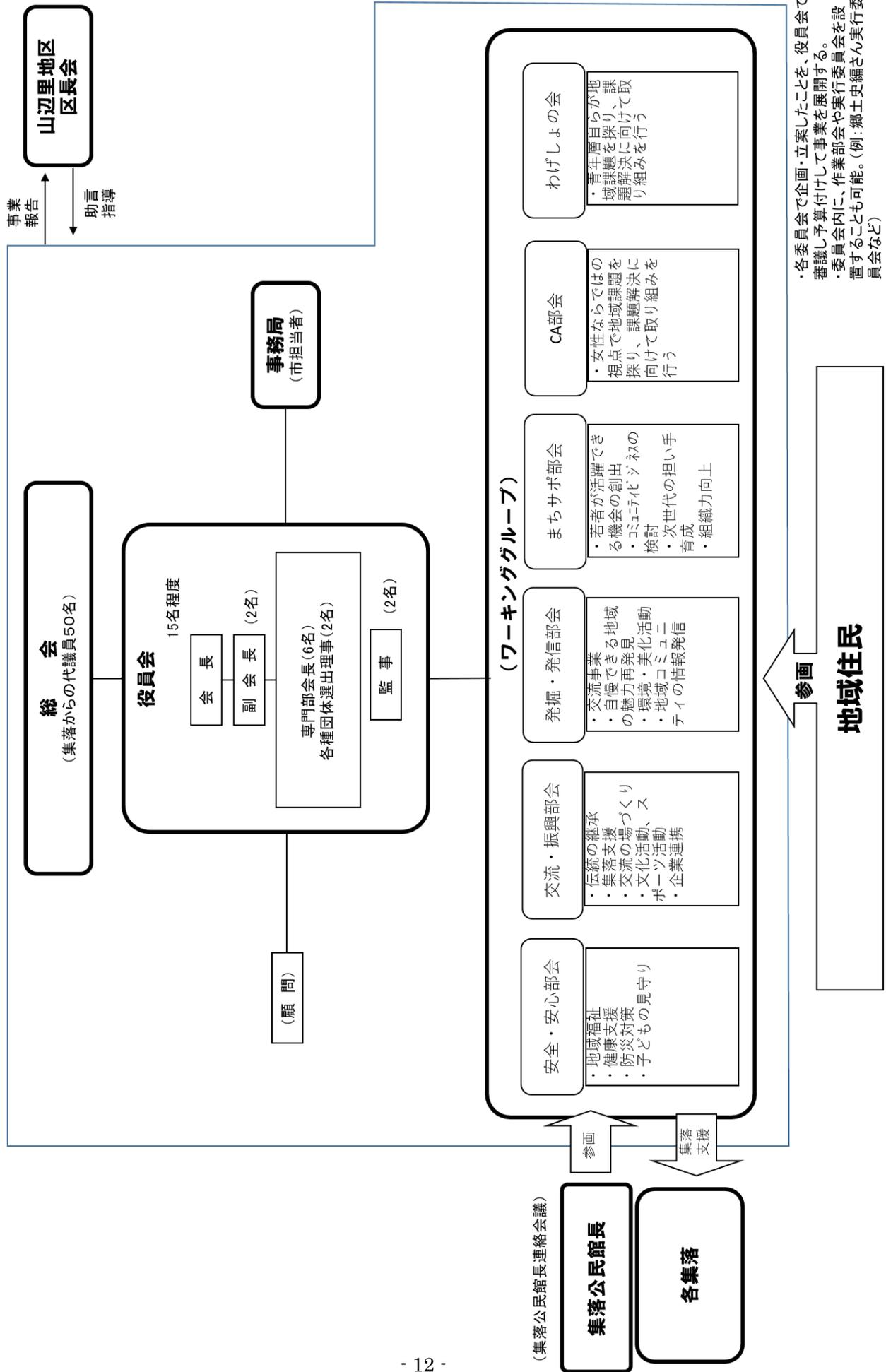
山辺里地区まちづくり協議会が発足して10年が経過し、その間、第1次及び第2次計画に基づき、地域固有の特色を活かした事業を展開し、地域活性化に向けて取り組んできました。令和3年6月に実施した住民アンケートの結果をみても、協議会組織とその取り組みが徐々に地域に浸透してきています。

第3次まちづくり計画では、これまでの取り組みを踏まえ、地域住民の誰もがより一層、誇りに思える地域づくりに向けて、住民アンケート結果から見えてきた地域が抱える課題の解決に向けた取り組みを優先的に進めると共に、より発展的に事業を展開していくため、毎年度、PDCAサイクルにより事業効果を検証し、必要に応じて事業の見直しを行い、将来像の実現を目指します。

■PDCA サイクル



7 まちづくりの推進体制



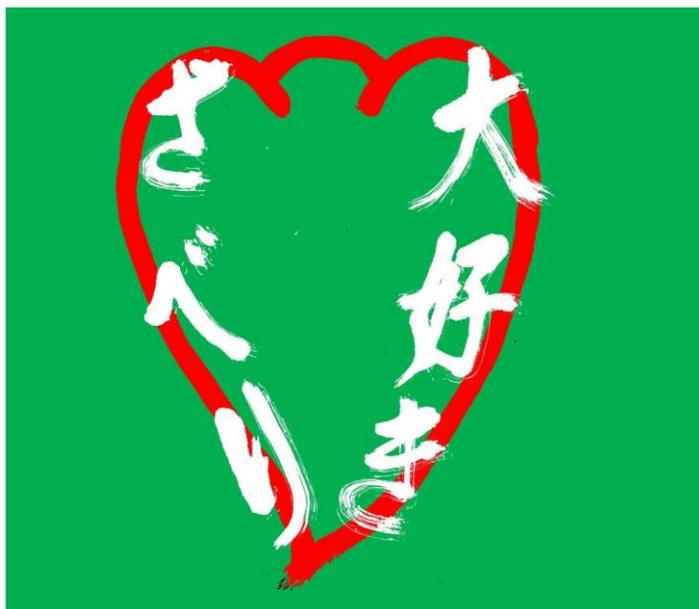
8 第3次山辺里地区まちづくり計画策定委員

(敬称略/順不同)

	役 職	氏 名	備 考 (まち協役職)
1	委員 長	大 滝 和 良	会 長
2	副委員 長	田 澤 勝	副会 長
3	副委員 長	菅 原 正 彦	副会 長
4	委 員	佐 藤 正 美	安全・安心部会 長
5	委 員	二ノ瀬 秋 男	地域交流部会 長
6	委 員	小 野 長 昭	発掘・発信部会 長
7	委 員	小 原 雄 大	青年部 長
8	委 員	小 田 和 彦	かんきょう委員 長
9	委 員	佐 藤 和 則	ふれあい委員 長
10	委 員	山 上 康 弘	つながる和委員 長
11	委 員	大 滝 和 哉	青年部副部 長
12	委 員	伊 藤 朋 子	つながる和委員
13	委 員	川 内 綾 子	つながる和委員

◎事務局：村上市自治振興課 自治振興室 山辺里地区担当

	役 職	氏 名
1	課長補佐	佐 藤 克 也
2	係 長	浅 野 由実子
3	主 任	建 部 昌 文



山辺里地区まちづくり協議会

事務局 村上市日下 993 番地 1

TEL : FAX : 0254-53-2715

E-mail : saberi-k@city.murakami.lg.jp